

# 一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

## 平成 30 年度第 4 回 理事会 議事録

【開催日時】平成 30 年 7 月 12 日（木）12:00～13:10

【開催場所】静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ 9F 会議室 901

【出席した理事】中村博亮、松山 幸弘、大川 淳、西良 浩一、高相 晶土、種市 洋  
永島英樹、中村雅也、波呂浩孝、前田 健、山田 宏、渡辺 雅彦

【出席した監事】加藤 文彦、小西 宏昭

【議事の経過の要領及びその結果】

中村博亮理事長は定款の定めにより議長となり、開会を宣言し、直ちに議事に入った。

### 審議・決議事項

#### 1. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査（5・6月分）

中村博亮理事長が、5・6月の入退会について委員会では全員承認であった旨報告し、決議を求めた。一同検討の結果承認した。

#### 2. 専門医制度委員会より：第 1 回～第 3 回の認定試験結果の件

中村雅也理事が、JSSR と NSJ 合同の専門医作業部会での決議を経た、第 1 回から第 3 回までの試験結果を報告した。ホームページへの公表については、両学会での承認後、合格者数のみを掲示する予定と説明した。

合格者からは認定料 3 万円を徴収予定であることを確認した。認定書は JSSR と NSJ の理事長の連名で発行される。

#### 3. その他

とくになし

### 審議・報告事項

#### 1. 新技術評価検証委員会より：

L I F の合併症調査の件

渡辺理事が、昨年行った調査結果をホームページおよび学会誌へ掲載したいと提案し、承認された。

頰椎人工椎間板プロクター会員の HP 掲載について

渡辺理事が、すでに掲載したコントリアーゼの件同様に、JSSR の頰椎人工椎間板プロクター施設についても学会ホームページのお知らせに掲載したいと提案し、承認された。

## 2. 専門医制度委員会より：委員会報告

中村雅也理事が、昨年から認定が始まった専門医機関研修施設について、指導医の異動等で条件を満たさなくなった一施設から返上の連絡があったと報告し、返上について承認された。

## 3. DB 委員会より：人工椎間板レジストリーの件

種市理事が、頸椎人工椎間板置換術手術のデータベース構築に関する研究とした研究計画書を提示し、これから当学会の倫理委員会に審議を依頼する予定と説明した。実際の症例登録は最短でも来春になると補足した。

整形系の学会では、日整会がデータベースの基礎を構築し、関連学会がそのうえにそれぞれのデータベースをくみ上げるような構想があると永島理事が報告した。

永島理事が、症例は病院のもので学会のものではないので、「原則すべて患者同意を得ること」としているが、実際にどうするかは各施設に任せ、学会は強制しないことになっていると説明した。

種市理事が、必要書類は日整会が作成する予定であること、および同意書については口頭説明による同意でもよく、説明し同意を得た記録を紙で残し主治医がそれにサインをする形式のものが作成される予定であると説明した。また、XLIF ACR および XLIF Thoracic 手術実績の最新の登録状況を示し順調に登録が進んでいることを報告した。

## 4. JSR 編集委員会より：委員会報告

長谷川理事が欠席のため、次回の議題とすることになった。

## 5. 用語委員会より：優性・劣性の用語について

高相理事が、日本医学会から遺伝学の“Dominant”および“Recessive”の略語に関し、「優性・劣性」との言葉が長らく使われてきているが、優性を顕性、劣性を潜性、隠性、伏性とする事で委員会内の意見がまとまったため回答した、と報告した。

## 6. 第1回脳脊髄髄液漏出症班会議の概要報告

大川理事が、竹下評議員から脳脊髄髄液漏出症班会議で、ガイドラインという名称を使わないことになったこと、非典型例についてはコントロールデータを収集していくことが決まったとの報告があった、と報告した。

## 7. 第92回日整会学術総会プログラムアンケート結果の報告

中村理事長が、第92回日整会総会のプログラムアンケートにJSSRとして提出した2演題について、「脊椎脊髄疾患診療における費用対効果について」が採択され、「脊椎疾患診断ガイドラインの医療に対する影響」については不採用の通知が届いたと報告した。

## 8. その他

- ・安全医療推進委員会の存在意義について

高相理事が、最近では合併症については新技術評価検証委員会が中心となって症例収集などを行っており、安全医療推進委員会の活動が減少していると、前理事の根尾先生から引き継ぎを受けたが今後委員会の立ち位置はどうなるだろうかと問題提起した。

中村理事長が、安全医療推進委員会では新技術に限らない脊椎脊髄疾患全体の合併症調査を数年に一度の割合で行っているため、引き続きそういった活動を進めてほしいと回答した。

永島理事が、今釜委員長が合併症調査の研究計画書を倫理委員会に提出していたが、同意書をどうするか等で現在ペンディングになっていると説明した。

今後も安全医療推進委員会にて、新技術に限らない合併症調査を行っていくことになった。

・脊椎疾患にかかわる用語の件

種市理事が、日整会の整形外科学用語集（第8版）では症候性側弯症の英訳がシンプトマティックスコリオシス (symptomatic scoliosis) となっているが、異なる概念であるシンドロミックスコリオシス (syndromic scoliosis) の日本語訳として症候性側弯症が混同されて使用される現状を指摘した。syndromic scoliosis の日本語訳を決める必要があるが、本件については JSSR の用語委員会内で検討してもらいたいのか、日整会用語委員会に依頼すべきなのかと問題提起した。日整会用語委員会アドバイザーの渡辺理事が、事務担当に連絡してもらえれば、日整会の用語委員会で検討するが次号の9版は3年後の出版予定であると発言した。

以上

平成30年7月12日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 中村博亮

監 事 加藤文彦

監 事 小西宏昭